

学校だより

ヒューストン日本語補習校

Japanese Educational Institute of Houston

14925 Memorial Drive, Bldg A, Suite 130, Houston, Texas 77079

Tel. 281-493-1512 / Fax. 281-531-6730 (事務局 火~金曜日)

Tel. / Fax. 713-973-0659 (職員室 土曜日のみ)

E-mail: jlssh@airmail.net Home Page: www.jeihouston.org

補習校の歴史を見てきた人 ～お世話になりました～

長きにわたり、補習校の事務職員としてご勤務されたライブロック祐子さんが、この度、ヒューストン日本商工会事務局の専任になりました。約8年間を補習校事務と兼任しながら、両組織を支えてくれました。保護者の皆さまにとっては、転入学の受付や各種行事の準備などで、ライブロックさんの活躍ぶりをご存じの方が多くと思います。

補習校の歴史とともに歩み、数多くの行事の経緯もご存じですから、どうか、これからも多くの子どもたちのために、先生方のために、より良い環境を作っていくことができるよう、今まで以上にアドバイスをいただきたいと願っています。

ヒューストン日本商工会事務局でのますますのご活躍を祈念します。お世話になりました。

お箸の持ち方から

東アジアの長い歴史の中で、古くは、中国は象牙、韓国は鉄、日本は木のお箸(はし)を使ってきたことを何かで読んだことがあります。お箸の文化を辿(たど)っていくと、国の風土や気候、人々の考え方[たとえば韓国はなぜ鉄なのか]などが垣間見えてきます。

日本の場合、木が使われてきた理由は幾つかあると思いますが、国土の7割が山地であり、木が豊富であることは、大きな理由の一つでしょう。

4月19日は、幼稚園でお箸の持ち方を確認、練



習をしていました。小さな細い指で、食べ物に見立てたスポンジやビーズを一生懸命に挟んでいました。私は、子どもたちが、苦労しながら豆を挟んでいる様子を見ながら、我が子や自分自身のこと、祖父母や両親から教わったお箸の持ち方ややってはいけないことを振り返っていました。

我が子がお箸を使うときに、お箸を交差させて食べ物を挟んでいたもので、何度か注意したものの、なかなか直すことができなかったこと、また、自分自身もお箸を交差させてご飯やおかずを食べていて、親から何度か指摘されたことなど・・・。

お箸の使い方は、日本人として身につけておきたい伝統的な習慣です。

子どもたちが親になったときに、自分の子どもに教えなければなりません。まずは、自分が正しいとされる持ち方をしていないと子どもたちに教えることができません。癖があるお箸の持ち方よりも正しいとされる持ち方の方が良いわけですから、楽しい食事をしながら、ぜひ、子どもたちの持ち方を再確認をしてほしいものです。



上のお箸だけを動かして、
お箸をしっかりと固定して、
下の
ビーズを挟みました。

また、楽しく食事をする、食事をおいしくいただくためには、気を遣いながら食事をするのは大変ですが、周囲に不快感を与えないために、「お箸を使ってやってはいけないこと」を祖父母や両親から教わりました。

たとえば、お箸で挟んだ料理を別の人のお箸を使って渡したり、お箸で食器を引き寄せたり、お箸を持った手で食器を持ったり、お箸で食べ物を突き刺したり・・・、まだまだあります。食事をしているときに色々言われても、その時はいい感じはしませんが、自分が成人し親になって初めて、教えられたことのありがたさがわかり、感謝をして

います。

これまで、学校教育の中で、お箸の持ち方や食事に関して、自分が教わったり教えたりした記憶がありません。本来、お箸の持ち方もそうですが、家庭の中で子に教え、また、次の代に引き継いでいかなければならない大切なことの一つだと思いました。

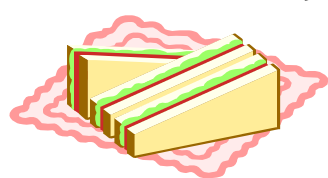
先週、週録（先生の教育活動記録）の中に次のような記録がありました。「2時間目や3時間目がくると、お腹がすいたと言ってくる子どもたちが多い。」
「朝ご飯をしっかりと食べてきてほしい。」

しっかりと食べてきてもお腹がすいてくる時間帯かもしれないませんが、一昨年も別の先生が同じような内容を記録していました。その時は、陰山英男先生が推奨



していた「早寝、早起き、朝ご飯」について、学校だよりで記述したことがありました。

その後、国も子どもたちのより良い生活習慣づくりのために、「早寝、早起き、朝ご飯」運動を全国的に展開していきました。有馬朗人元文部科学大臣が会長として全国協議会も発足し、「基本的生活習慣の乱れが学習意欲や体力低下の要因の一つ」というあいさつがあったことを覚えています。



子どもたちが健やかに成長していくためには、調和のとれた食事、運動、十分な睡眠や休養が大切です。

上記の運動は、当然のことながら、国が実施するものではなく、親が子どものことを考え、祖父母が子どもの親と力を合わせて自分の子どもたちに施していくことです。

表現は異なりますが、30年、40年前から同じようなことを言ってきたに違いありません。最近の調査では、毎朝、ご飯をきちんと取る子どもほど、学校で学習する各教科の基礎基本を身につけていることが明らかになっています。

お箸の持ち方から「食育」に近い内容に話が発展してしまいました。食生活について、日本国内では食育基本法が施行され、「食育」の重要性が一段と高まっているところです。

「ひ・も・と」を大切に（3）

～不思議な人の縁～

「ひ・も・と」の「ひ」は人の「ひ」でした。前号は、人を大切にすること、補習校の友だちを大切に、楽しい思い出がたくさんできる補習校であってほしいことを書きました。

人の縁とは本当に不思議なものですね。2年前に

20年ぶりに教え子と再会しました。阪神大震災の前年まで、彼と葉書のやりとりをしていました。あの凄惨な大震災以後、音信が途絶えてしまいました。彼の同級生に会ったときには、彼の消息を尋ねてみたのですが、結局、わからず終いでした。

同じビルの中で、毎日のようにすれ違っている、その人と縁がなければ、一生知り合いになることはありません。

反対に、2年前のように、どんなに遠くに住んでいても、音信不通であっても再び出会う人には出会うものだと感心し、また不思議に思ったものです。



そんな彼とは、何人もの人や団体を介しての再会でした。人と人との出会いやつながりは、きっと何かの大きな力が働いているにちがいません。

新しい縁が生まれた平成20年4月も最終土曜日を迎えます。平日の忙しい現地校生活の中にあっても、これまでに出会えた縁を大切にしたいし、この4月から補習校の同じクラスになって出会った縁、そして、これから出会う縁、みんな大事にしてほしいと思います。

縁あって、ヒューストン日本語補習校に通い、机を並べて日本語で勉強している彼や彼女が、20年後に、偶然に偶然を重ねて、どこかで会うかもしれません。そんなドラマが生まれるような友人関係を補習校で作ってほしいものです。

今回の「ひ・も・と」は「と」＝時、時刻や時間を大切にすることを書きます。

◆パトロール当番予定表 5月3日◆

～よろしくお願ひします～

学年	順位	児童生徒氏名
★AM1 リーダー 小3	5	クリステン イザン
	2	6 山田 枝葉
	3	7 原津 拓巳
	4	8 村上 コラス 大樹
	5	9 リード ジェームス 明
	6	10 水野 妃菜穂
★PM1 リーダー	1	2 松田 樹生也
	2	13 正岡 佑規
	3	14 武井 拓博
	4	15 杉本 雅隆
	5	16 前田 健斗
	6	17 リズ イー 健太



<転出>

岸井遼亮君（小3B） 岸井杏樹さん（小4A）
ヒューストンのお友だちは一生の宝物ですね。ずっと仲良くしてください。これからも日本語の勉強に勤しんでください。お元気で、さようなら。